テーマ：神様が沈黙しているように思われる中で、どのようにして待ち望み続けるか

●27 篇と 28 篇に見られる共通点
「岩」(28:1; cf. 27:5)　「聖所/幕屋」(28:2; cf. 27:4-5)
「とりで」(28:8; cf. 27:1)　「救い」(28:8-9; cf. 27:1,9)　「誉め“歌”」(28:7; cf. 27:6)

「二七篇に続くこの位置は、意図されたものであるように思われる。この詩篇が二七篇の最もふさわしい補足であり、続編となっているからである。」(チャールズ・スポルジョン)

〇沈黙の中で：三つの祈りの姿勢

1. **_____祈り続けること(1-2)**

▶「私に口をつぐまれて、私が、穴に下る者と同じようにされないように」(1b)
(新改訳 2017 「私に沈黙しないでください。私が穴に下る者どもと同じにされないように」)

→ 原文直訳「もし、あなたが私に対して黙ったままなら、私は穴に下る者と同じになってしまうでしょう。」

●ダビデの持っていた二つの確信

a) 神様だけが_____を与えることができる方だと信頼していたから

b) 神様だけが_____だったから

※詩篇 30:3
「主よ。あなたは私のたましいをよみから引き上げ、私が穴に下って行かないように、私を生かしておかれました。」

※ルカ 18:1-8
「いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいた。その町に、ひとりのやもめがいたが、彼のところにやって来ては、『私の相手をさばいて、私を守ってください』と言っていた。彼は、しばらくは取り合わないでいたが、後には心ひそかに『私は神を恐れず人を人とも思わないが、どうも、このやもめは、うるさくてしかたがないから、この女のために裁判をしてやることにしよう。でないと、ひっきりなしにやって来てうるさくてしかたがない』と言った。」主は言われた。「不正な裁判官の言っていることを聞きなさい。まして神は、夜昼神を呼び求めている選民のためにさばきをつけないで、いつまでもそのことを放っておかれることがあるでしょうか。あなたがたに言いますが、神は、すみやかに彼らのために正しいさばきをしてくださいます。しかし、人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」」

2. _____の行く末を覚えて祈り続けること(3-5)

(*マタイ 7:1「さばいてはいけません。さばかれないためです。」)
(*マタイ 5:44「しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」)

※ローマ 12:19
「愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」」

※ローマ 1::20-21
「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。」

3. _____ を分かち合いながら祈り続けること(6-9)

※ルカ 17:15-18
「そのうちのひとりは、自分のいやされたことがわかると、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリヤ人であった。そこでイエスは言われた。「十人きよめられたのではないか。九人はどこにいるのか。神をあがめるために戻って来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。」

〇まとめ